

つれづれ

平成29年3月1日(水)

梅の花に思う

東風吹かば匂ひおこせよ梅の花主なしとて春を忘るな



学問の神様として知られる菅原道真が、無実の罪で九州の太宰府に流された時、京都の自宅で大切にしていた梅の木を思って詠んだ歌です。

現代語訳をすれば、『春になって東風が吹いてきたら、その風に花の匂いを乗せて送ってくれ。主の私がいなくなったからといって、花の咲く春を忘れるな。』となります。

先日、近くの公園に行くと、梅の花が咲き誇っていました。近づいてみると、甘さの中に清涼感を感じる匂いがしました。菅原道真も、同じ匂いをかいでいたかもしれません。

以前、次のような話を聞いたことがあります。「梅の花は、厳しい冬の寒さを耐え忍ぶからこそ、初春に美しい花を咲かせ、かぐわしい香りを発する。人間も苦難や試練を乗り越えることで、一段と成長できる」

これは、西郷隆盛が好んだ「雪に耐えて梅香麗し」という漢詩の一節の現代語訳です。元広島東洋カープの黒田博樹投手は、この言葉を座右の銘にしていたそうです。

人生は楽しいことばかりではありません。苦しいことや大きな壁が目の前にたちはがかることもあります。そこから逃げてしまうことは簡単ですが、それではいつまで経っても人として成長できません。

3年生であれば、高校入試という壁を乗り越えなければ高校生にはなれません。人生には、避けては通れないこともたくさんあるのです。

夢や希望を叶えるためには、現実から逃げず、努力を重ね、目の前にある壁を、ひとつひとつ乗り越えていくことが大切なのです。壁の向こうには、必ず希望に満ちた未来が待っているはずです。

<保護者の皆様へ>

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【大阪市教育委員会 天下茶屋中学校】で検索



QR code

天下茶屋中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j762750>